日本基督教団　関東教区

関東教区通信

No.175　2024年4月28日

発行者　日本基督教団関東教区
総会議長　熊　江　秀　一
事務所　〒330-0844　さいたま市大宮区下町3－39
電　　話　048－647－0862
ファックス　048－647－0978
郵便振替　00140－3－67727
Eメール　kantou@air.ocn.ne.jp
URL　https://uccjkanto.holy.jp/index.htm

レッテルをはがす

ヨハネによる福音書7章45節から52節、マルコ3章22節から27節

筑波学園教会牧師　上原　秀樹

教会の幼稚園の園長だった時のことです。園舎を建て替えていたので、園庭を使用することができませんでした。そこで隣にある中学校の校庭をお借りすることにしました。運動会当日だけではなく、体育の授業などをしている横で子どもたちが運動会の練習をしました。中学校には、とても迷惑をおかけしました。また、運動会は大きな音を流します。そこで、中学校の校庭のご近所の方々に挨拶に行きました。その時、このような噂を聞いたのです。近くの小学校で運動会を行ったときに「うるさい」と苦情を言った方がいる、と。その方の家は、中学校の校庭の脇にあります。緊張してその方のお宅に伺いました。「園舎建て替えのため中学校の校庭をお借りしました。今度の土曜日に運動会を行います。ご迷惑をおかけすると思います」と私はお伝えしました。すると「わかりました。どうぞ遠慮なく行ってください」と言うのです。私は、拍子抜けしてしまいました。事前に分かっていればその方も怒ることはなかったと私は理解しました。私は、話をせず勝手に「怖い、近所付き合いが悪い」とレッテルをその人に貼ってしまったのです。幼稚園の運動会は、中学校が校庭を快く貸してくださったこと、周りの住民の方々が快く受け容れてくださったことにより、楽しく行うことができました。

イエスの時代もレッテル貼りがありました。それは、出身地・性・帰属集団などとの関連で考えます。レッテルには肯定的な面と否定的な面があります。否定的なレッテルを貼られると社会共同体におけるその者の地位や役割はかなり打撃を受けることになります。

ヨハネによる福音書7章45節以下で、祭司長たちやファリサイ派の人々は「あなたもガリラヤ出身なのか。よく調べてみなさい。ガリラヤからは預言者の出ないことが分かる」と述べ、イエスを暗に批判しています。マルコによる福音書3章22～27節、「イエスはベルゼブルに取りつかれている、悪霊の頭の力で悪霊を追い出している」。このような悪いレッテルを貼り、律法学者たちはユダヤ共同体における地位に悪い印象を与え、イエスを陥れようとしました。現代でも同様なのではないでしょうか。「現代アメリカ社会では、『アカ』『過激派』『弱虫』といったレッテルが貼られると、社会における出世や地位がゆゆしく損なわれることになる。1世紀の地中海世界では『罪人』『汚れている』『無能』といったことが、同じように破壊的な効果をもたらした」（『共観福音書の社会科学的注解』）。イエスは反論しました。しかしイエスは、ただ律法学者たちに反論しただけではないと私は考えます。つまりイエスはレッテル貼り自体を否定したのではないか、と思うのです。相手を攻撃するために否定的なレッテルを貼り、周囲の人々からも阻害されるようにする、それは相手を傷つける行為です。イエスは、相手を傷つけるのではなく、ありのままを受け容れ祝福してくださるのです。私たちは気づかないうちに相手に勝手な決めつけをしてしまい、自分とは違うと排除しようとしてしまうことがあるかもしれません。それが神、イエスの望んでいることなのでしょうか。否定的なレッテル貼りは、交わりではなく断絶になってしまいます。

私たちは、イエスが私たちのありのままを受け容れてくださったように、互いに受け容れ合い神の前に立ちたいと思います。このことによって相手を知り、力を合わせることができる。このことを通してこそ宣教を行うことができると思うのです。イエスこそ、レッテルを貼らず、ありのままの私たちを受け容れてくださった、この喜びを多くの人と分かち合いたいと思います。

第74回関東教区総会のご案内

教区副議長　田中かおる

第74回関東教区総会は、2024年5月29日(水)～30日(木)に、久しぶりに「ソニックシティ小ホール」（大宮駅西口）を会場に開催いたします。コロナ以降、新しい会場（レイボック）では会場の制約により聖餐に共に与ることができなかったのですが、ソニックシティであれば、聖餐式執行、会場内でも食事（お弁当）が可能となります。それぞれの会場の一長一短はありますが、ソニックシティであれば、聖餐に共に与ることの恵みを享受できることは感謝です。

会場は換気などの感染対策は十分なされており、マスク着用などの規制はありません。従いましてマスク着用は任意としますこと、ご了承ください。

総会の設営担当は群馬地区ですが、今年も、埼玉地区の応援を得ての設営となります。両地区の皆さま、よろしくお願いいたします。また、議員の皆さまにもさまざまな形でご奉仕いただくことになるかと思います。依頼のありました際には、どうぞ、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

今年の教区総会の議案とタイムスケジュールについては、後日送付される「第74回教区総会『議案・報告書』」をご覧ください。

「目次」には、今総会期で扱う議案・報告の全表題が記載されています。またタイムスケジュールは「仮執行順序」をご覧ください。議員の皆さまは予め読んで総会にお臨みいただくようお願いいたします。

受付は午前9時半からです。午前10時には登録を済ませ、当日お渡しする資料の袋に記載された所定の席にお座りください。遅れないようにご協力ください。

袋の中には名札が入っております。議員証として選挙・採決時に必要ですので、会場では常にお付けください。

教区総会は開会礼拝から始まります。御言葉に聞き、聖餐に与り、祈りと賛美を献げ、主にすべてを委ねて総会を開始いたします。

その後、「組織会」「議事Ⅰ」に入ります。総会のための委員や奉仕者を選任いたします。

続いて、「来賓紹介」、「新任教師紹介、隠退教師紹介」を致します。

昼食は、今年は会場と提携している業者のお弁当となります。会場内で召しあがっていただけますので、時間的には余裕があるかと思います。

昼食後、「関係学校・団体報告」に続いて、「准允式」を執行します。これは教区総会に委ねられている「教師をたてる」大切な式です。教師の誕生を主の前に共に喜び、祝いましょう。

教団の問安使挨拶は、2日目の昼食前になります。教団総会にむけての教団からのご挨拶を得て、質疑応答の時といたします。

以下に第74回教区総会における重要議案をご案内いたします。

①選挙：教団第43回総会期のための「教団総会議員」の選挙を行います。

②「教区活動方針」：今年度の関東教区宣教活動の柱となる議案です。昨年度に引き続き、改めて教区の働きは何かを考え、伝道が推進されることを願っての方針です。活発なご意見、議論と共に採決へと導かれますことを願っております。なお、以下の協議会がこれに連動します。

③全体協議「教区の財政と宣教の取り組み」：教勢低下による財政の低下を踏まえての宣教の取り組みを複数の発題者による発題を経て協議します。1日目の夕食前に開催です。

④「ナルドの壺献金」及び教会互助に関する件：

今総会期も1200万円の献金目標額を提案いたします。互助による教区協力伝道によって、諸教会・伝道所の伝道が推進されることを願っております。お祈りと共にご協力をお願いいたします。

なお、2日目午後には、逝去教師と信徒の追悼祈祷が献げられます。共に祈りを献げましょう。

この他、予算・決算等、法定議案も一つ一つが大切です。限られた時間で多くの議案審議を行います。円滑で内容豊かな協議となりますように、ご協力をお願いいたします。

主の御導きを祈って…

第74回関東教区総会開催のお知らせ
〈公　告〉

第74回関東教区総会を教団規則第65条および教区規則第15条、17条に従って、下記の通り開催いたしますので、議員の皆様は登録の上、ご出席をお願いいたします。

日　時：2024年5月29日（水）－ 30日（木）
会　場：さいたま市・ソニックシティ小ホール
〒331－0852　さいたま市大宮区桜木町1－7－5　℡ 048－647－4111　Fax 647－4159
宿　泊：パレスホテル大宮
〒331－0852　さいたま市大宮区桜木町1－7－5　℡ 048－647－3300
スーパーホテルさいたま大宮駅西口
〒330－0854　さいたま市大宮区桜木町1－12－6　℡ 048－645－9000

［主な議題］
(1)　仮執行順序承認の件
(2)　按手礼・准允式執行に関する件
(3)　教区総会特別委員選出の件
(4)　開票事務局を設置し、第74回総会中に選挙開票を行う件
(5)　教団総会議員選挙に関する件
(6)　教区議長報告
(7)　2024年度関東教区活動方針に関する件
(8)　秋季按手礼執行の件
(9)　「ナルドの壺献金」推進の件
(10)　「会堂・牧師館建築緊急貸出基金」献金推進の件
(11)　教育費互助奨学金献金推進の件
(12)　「2024年度教団部落解放センター活動献金」推進の件
(13)　2024年度宣教部活動計画に関する件
(14)　2024年度教師部活動計画に関する件
(15)　2023年度一般会計決算承認の件
(16)　2024年度教区歳入歳出予算案承認の件
(17)　教会記録審査を、各地区委員会に委託する件
(18)　第73回教区総会議事録承認の件
(19)　次期第75回教区総会開催に関する件
　　その他

＊議案・建議・請願を考えておられる方へ。議案は総会開会40日前まで（4月19日）に議員10名以上の同意を得て、また、建議・請願は総会開会21日前までに議員5名以上の同意を得て、総会議長宛で教区事務所へご提出ください。経費を要する議案・建議・請願は、収支予算案を必ず添付してください。議案は議員が提出でき、建議・請願は関東教区内の教師および信徒が提出することができます。
＊なお、新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、開催の形式が変更になる場合があります。

2024年3月1日

日本基督教団関東教区　総会議長　熊江　秀一

地区だより

新潟地区

地区長　小池　正造

新潟地区総会が、中条教会を会場に３月10日（日）15時より正議員30名の出席を得て、開催されました。開会礼拝は３月末で新潟地区を去る盛合尊至教師の御言葉に聴き、総会を始めました。

地区活動方針が可決され、地区信徒大会の開催、地区祈祷会の開催、地区デー交換講壇を７月14日に開催することが決まりました。

地区委員会からの提案議案によって、新潟地区にあるいくつかの主任担任教師が補教師である教会／伝道所に対して、聖礼典執行に関わる正教師をお招きする交通費補助を、今年度も継続して行うことが提案され、可決されました。できる限り教会での聖礼典執行が滞らないように配慮するよう努めています。

地区総会における議員資格について、数年にわたり協議を重ねてきました。これまで新潟地区では、大きな教会も、小さな伝道所も教師１、信徒１の同等の議決権が与えられていました。そのことを大事にしつつ、担任教師にも議決権が与えられるようにという意見も鑑み、教会の主体によって、教師議員を選出することを、試験的に実施することを提案し、可決されました。また、青年への地区集会への参加費補助を提案し、可決されました。これによって、これまで経済的事情を理由に集会参加に後ろ向きであった青年が、参加できるようになることを願っています。

今年も各教会／伝道所の活動が、前進できるように、地区としてさまざまな取り組みをしていきたいと考えています。

群馬地区

地区長　藤田　基道

【人事】2024年2月末をもって生地善人（おんじよしと）教師（高崎教会）、李元重（リ ウォンジュン）教務教師（新島学園短期大学宗教主任）、大嶋果織教務教師（共愛学園前橋国際大学）が辞任。2024年４月末をもって稲垣真実教師（吾妻教会）辞任予定。

【活動】

2023年11月23日新島学園短期大学において午前は群馬地区大会（４年ぶり）、午後は群馬地区役員研修会を開催しました。講師に北海教区置戸教会より荒谷陽子牧師（写真）を招き、語られる言葉を通して神さまが働いておられることを感じ、心が開かれたように思います。午後はグループごとに語り合い、それぞれの意見が交わされました。

群馬地区内にあって後任教師を招くために祈りと心と力を尽くしている松井田教会。本年５月より専従の教師がいなくなる吾妻教会。代務者として、礼拝奉仕者として関わり支える働きがなされています。感謝しつつ、群馬地区委員会として祈りを合わせ、関わるつもりです。

今後も続いて集まる機会を設けていきたいと考えています。そして、若い人たちを招くプログラムを企画・開催する予定です。

栃木地区

地区委員長　髙﨑　正芳

栃木地区は3月17日（日）に2024年度地区総会をおこない、旧年度の活動を総括し、新年度をスタートしました。一年の歩みを振り返ると、緊急事態宣言から始まった新型コロナウイルス感染症への対応は、5類感染症への移行にともない区切りを迎えました。2022年度までは休止あるいは書面、リモート等で変則的に実施してきた集会も、2023年度は通常の開催に戻りました。夏には青年部がバーベキューフェスティバル、教育部が研修会（講演題「『戦争と平和』の時代とキリスト教」、講師 芦名定道氏）、秋には婦人部が修養会（講演題

「アジア学院から見た信仰と女性のリーダーシップ」、講師 荒川朋子先生）を対面で実施しました。

前回の「地区報告」以降の活動としては、オータムフェスタ（2023年11月23日、四條町教会11教会1団体から43名が参加）があります。講師は「病床にある方や心身に痛みを持つ方に、ハープと歌による祈り」を届ける活動リラ・プレカリアの主宰者キャロル・サック先生。東京・山谷の在宅ホスピスケア施設きぼうのいえで、終末期ケアに関わった経験等をハープの実演を交えて伺いました。

益子伝道を推進する会は関東教区内外の教会・伝道所、支援者の祈りと支援に支えられて今期も活動しました。大下正人牧師が益子教会の専任となったとき、教会員はパートナーの陽子姉1名でした。3年の間に4名の転会者があたえられ、イースターには転会者、更に洗礼を考えて礼拝に出席している方がいると聞いています（写真）。教会堂が建つ土地が借地であることが益子教会にとって精神的、経済的な課題でしたが、皆さんの支援に支えられて、境内地を取得できたことを感謝して報告します。

教師の異動について、竹花牧人牧師が2023年12月に小山教会の担任教師に就任しました。松井初牧師（佐野教会）、ジョナサン・マッカリー宣教師（那須塩原伝道所）とともに、3名の教師が栃木地区の活動に加わったことをうれしく思います。

茨城地区

地区長　手束　信吾

2023度の茨城地区の活動において、特筆すべきはやはり4年ぶりに地区大会をフルバージョンで開催できたことです。「とにかくみんなで集まろう」という主題のもと、活動中の教会・伝道所すべてから参加者が集められたことはうれしいことでした。各教会・伝道所がさまざまな工夫を凝らして自己紹介をし、またワールドカフェ方式で、いろんなトピックについて話し合うことを通して、改めてお互いを知る機会となりました。この経験から2024年度は、地区祈祷会を始めることになりました。それぞれの教会・伝道所が置かれている現場に足を運び、抱えている宣教の課題を覚えて祈り合うことが出来ればと願っています。各部の働きでは、教師部が対面での教師会を再開し、コロナ禍に新しく赴任してきた教師を中心に発題がなされました。教育部は地区大会の子どもプログラムを担当し、タピオカストローの笛づくりと笛による演奏や手遊び歌を披露しました。伝道部は地区だよりを発行しました。今回から写真掲載をカラー化し、より見やすくなりました。地区女性部は4年ぶりに対面での総会を開催し、鹿島教会への訪問、女性部便りの発行などを行いました。社会部は2・11集会を「旧統一教会脱会者による証言～カルト問題を学ぶ」というテーマで、竹迫之（たけさこいたる）牧師（白河教会）を講師に迎えて行いました。講師の経験談を通して、旧統一教会やマインドコントロールについてお聞きすることができました。カルト問題は、自分とは関係がないのではなく、教会の課題であることに気づくことができました。Zoomを含めると66名の参加者があり、関心の高さがうかがえました。そのほかに、地区として下館教会に月2回、説教の応援をいたしました。茨城地区の教師だけでなく、隠退教師や栃木地区の那須塩原伝道所からも教師を派遣していただきました。多くの方の協力を得て、一年間の礼拝が支えられ感謝でした。下館教会は4月より新しく教師を迎えられることとなりました。

埼玉地区

地区委員長　小林　　眞

3月20日（水）に、聖学院大学チャペルにて、埼玉地区総会が開催された。開会時は、89名（127名中）の出席。今総会の特徴は、選挙の多さ。地区委員長選挙をはじめ、補充選挙も加えると、7回の選挙があり、投・開票委員の方々は、当然ながら大忙し。

大体の流れを紹介すると、冒頭の開会礼拝の担当は、慣習として今年度で、他地区に転任する年長者か、もしくは隠退する教職が担当する。今回

は現地区長（筆者）がそれに該当。説教題は「福音の継承」で、コリントの信徒への手紙一15章３～８節。

この箇所は、言うまでもなく、教会の歩みにとって、一番大切な箇所。これを間違うと、教会の福音でなくなり、個人の思想となり、場合によっては異端にも成り下がる大切な箇所。従って、そうならないように地区規則２条にも、そのことが定められている。さらにこの内容が、後に承認された「新年度地区宣教活動計画に関する件」にも直結することと、語らせていただいた。

選挙結果は、委員長に栗原清先生（武蔵豊岡教会）、そして、後の委員会で副委員長には、武田真治先生（上尾合同教会）、書記に町田さとみ先生（初雁教会）、会計に渋谷弘祐先生（毛呂教会）と定められた。

なお昨年末から入院され、病により歩行困難となり、隠退される高橋悦子先生が長い間担当された桶川伝道所は、しばらく休止し、新地区委員会が、今後の歩みを協議・検討することとなった。また埼玉中国語伝道所は、礼拝堂の確保にも苦労があるが、新年度からは、新しく代務者も代わり、再出発となる。皆様の、お祈り・お支えを願う。

最後に、チャペルを使用させて下さった聖学院大学、またさまざまな所で、総会の運営の支援をして下さった諸奉仕の方々に心から感謝いたします。

〝関東教区罪責告白〟を学ぶ会　第２回報告

罪責告白小委員会長・初雁教会牧師　町田 さとみ

3月22日。第２回〝関東教区罪責告白〟を学ぶ会を開きました。第２回と３回（5月24日）と続けて、「戦前・戦中の沖縄、戦後の沖縄」についての講演です。講演者は村田元先生（群馬町教会）。

今回の学び会では「沖縄キリスト教団成立前史と日本基督教団との合同への歩み」と題して、以下の4つのテーマにそってお話をされました。

１．琉球国から沖縄県への歴史の振り返り
２．日本基督教団の成立までの沖縄の教会
３．日本基督教団成立後の沖縄の教会
４．沖縄戦後から日本基督教団との合同前の沖縄のキリスト教会の歩み

以上4点から要所をかいつまんでご紹介します。

沖縄県が琉球王国であった時代から歴史を辿られ、第二次大戦での地上戦、戦後の沖縄の米軍統治下、サンフランシスコ条約と、社会と沖縄の歩みを踏まえた後、キリスト教会について語られました。沖縄宣教の始まる1890年代、1941年6月24日の日本基督教団の成立、戦中の沖縄の教会、戦後の信徒の教会による沖縄キリスト連盟の成立と、次々と順序だててお話ししてくださいました。

その後〝1946年6月に、戦後初の教団総会が開かれ、大城実は「合同教会の決意は、歴史的、社会的、政治的状況を越えてなお、同一の主、一つの教会への告白の上になされたものであるはずである。とすると、沖縄が軍事占領下にあるということ、行政権が分離されているという事実さえも、その告白は突き破るものであるはずである」とし、このことは戦後再出発した教団の教会としての在り方が問いなおされるべき出来事と村田先生は引用を含めて語られました。それから、「沖縄キリスト教会」への名称の改称に触れ、〝プロテスタント教会に限るが、超教派的単一教会を標榜する全体教会に変わった〟とレジュメに記されています。その後、〝1955年3月26日の沖縄キリスト教大総会において「沖縄キリスト教会信仰告白」が制定され、「日本基督教団信仰告白文と生活綱領を使用することを決議」〟。その後に、沖縄キリスト教会が沖縄キリスト教団と名称を改称したことにも言及され、1966年度からは教師検定試験の学科試験を日本基督教団教師検定委員会作成の問題で実施することになったことにも触れられました。以上より、関東教区の罪責告白はこの沖縄の痛みから始まり、痛みに心を寄せることをもって結びとされました。

次回、第３回の学ぶ会が、5月24日（金）午後5時から6時30分、大宮教会を会場として開催されます。対面、ZOOM配信、どちらでも結構です。どうぞ参加ください。

第73総会期第5回常置委員会報告

報告者　小池　正造

第5回常置委員会を4月16日（火）に、第6回常任常置委員会を2月27日（火）に、第7回常任常置委員会を4月2日（火）に大宮教会で行いました。

・ナルドの壺献金の報告がなされ、11,383,473円が献げられました。特に3月には、約275万円を超える献金が献げられたことに感謝します。
・教区教会負担金が完納されました。感謝します。
・宣教部から社会活動協議会inオキナワ（2月19-22日）、第1回ユースプロジェクトの報告がなされました。第8回9条世界宗教者会議と合流し、青年たちが平和の祈りを作成しました。
・関東教区日本基督教団罪責告白を学ぶ会をリモートで行った報告がなされました。発題内容は、録画され、教区ホームページでも視聴できます。多くの方々に視聴されるようアピールがなされました。
・教団部落解放センターへの関東教区内諸教会・伝道所からの献金額が、教区総会で議決をした目標額35万円を超えて、37万円の献金が献げられたことが報告されました。
・春季教区准允志願者の面接を行い、大下陽子氏（益子教会担任就任予定）の准允を、教区総会（5月30日）で執行することを可決しました。
・教区総会議長報告を承認しました。
・2024年度教区活動方針を教区総会議案とすることを可決しました。
・2024年度宣教部活動計画を教区総会議案とすることを可決しました。
・2024年度教師部活動計画を教区総会議案とすることを可決しました。
・2024年度教区予算について教区総会議案とすることを可決しました。教会負担金は2023年度当初教会負担金から2％減の39,660,000円（974,000円減）となります。当年度経常収入計は、44,720,000円となります。経常支出は、教師部交付金を450,000円（190,000円増）、会議費（教区総会費、常置委員会費）5,970,000円（250,000円増）、広報費1,350,000円（150,000円増）、人件費5,000,000円（300,000円減）と組み、当年度経常支出計は、53,500,926円となります。増額理由は、物価高騰（宿泊費、通信費）のためです。
・ナルドの壺献金推進に関して、2024年度献金目標額を1,200万円としました。今期の受給教会は10教会7,601,000円に抑えられていますが、必要とする教会は増加の傾向にあります。
・第74回教区総会準備について会場が大宮ソニックシティ小ホールとなります。
①仮執行準備を確定しました。准允式を1日目13時30分より行います。今総会は、開会礼拝において聖餐式を行います。今回の食事はお弁当の配付となりますので、昼食時間、夕食時間はそれぞれ60分を確保しました。時間の厳守をお願いいたします。「関東教区のこれから」（仮）を主題とした協議会を1日目夕食前に持ちます。宣教の観点から、財政の観点から発題者をたてる予定です。教会記録審査を、各地区委員会に委託することになりました。
②第75回教区総会会場を大宮ソニックシティ小ホールで行うことを決めました。
③総会奉仕者／特別委員を選出しました。
・向山荘跡地活用のためのプロジェクトチームを設定しました。
・新型コロナウイルス対策支援の終了を可決しました。
・活動休止状態にある教会／伝道所への教区負担金の扱いについて問い合わせがありました。教団には、活動休止届の類いものはありません。そのため、教区として活動休止報告書を提出していただき、教区負担金の対象から除外できるようにいたします。なお、解散とは異なることに留意しつつ運用していきます。

・各種申請に関する件（敬称略）
（1）教会担任教師異動

十日町教会	辞 久保田愛策（主・正）
	就 寒河江健（主・正）
桶川伝道所	辞 高橋悦子（主・正）
深谷教会	辞 法亢聖親（主・正）
	就 佐藤嘉哉（主・正）
下館教会	辞 川真田正（代・正）
	就 筒井昌司（主・正）
	就 伊丹美貴（担・正）

教区事務所だより

主事　金刺　裕美

感謝のうちに2023年度を終え、イースターの恵みと共に新年度が始まりました。美しい桜や花々を横目でちらっと眺めるだけで、年度末や年度初めの事務にそして教区総会の準備と、毎日を追われるように過ごしています。皆様の教会・伝道所でも同じかもしれませんが、どうぞ、お身体に気を付けてお過ごしください。

◎各種書類の提出はお済でしょうか？

提出書類をメールで送られる教会・伝道所が増えました。しかし、議員登録や逝去信徒報告、教勢報告等が１頁に纏めて書かれていたり、必要事項の漏れも多く、問い合わせをしたり別紙に記入しなおすなど、便利な反面、かえって事務的に時間のかかることがぐっと増え、メールでの提出は再検討しなくてはならなくなりそうです。

◎退職年金報酬額報告書の提出について

※用紙の３枚目は教会保存分ですので、上の２枚（カラー用紙）だけをお送り下さい。

◎教会負担金納入のお願い

教区活動のすべては、各個教会・伝道所からの負担金により運営されています。どうぞ、年度初めより計画的な納入にご協力をお願い致します。

◎教区総会議員登録票の内容変更・送金はお早めに。

総会費は、5月21日（火）までにご納入ください。毎年、総会当日に受付で納入される教会がありますが、受付も混み合っています。**必ず事前にご送金ください。**

◎「第74回関東教区総会議案報告書」送付について

現在作成中です。各教会・伝道所へ議員数を5月19日（日）頃までに送付します。信徒議員へお渡しください。

◎「罪責を告白する教会」書籍を販売しています。

長く品切れとなっていましたが、「罪責を学ぶ会」の始まりに伴いこの度増刷致しました。ご希望の方は、1冊2,000円と送料370円を添えて、教区事務所へお申し込みください。教区総会会場でもお求めいただけます。

◎教区事務所の執務日・時間

火曜日～金曜日　10時から5時

（土・日・月曜日、祝祭日はお休みです）

社会保険事務だより

保険事務　金刺　裕美

寒暖差の激しい春を迎えています。睡眠・栄養等に十分気を付けて、どうか、体調不良になりませんように。

◎社会保険報酬額報告書の提出

今年度の謝儀額が確定されましたら、早急に報告をご提出下さい。年間自払一覧表の作成に入ります。

◎社会保険料について

毎年、同じことをお伝えしておりますが、4～6月分は、前年度3月分と同額の保険料になります。その後、7月分・9月分から等級変更がある方や、満40歳・65歳・70歳になる方へ、該当月の前に保険料の変更通知を送付いたします。通知がない方は、変更がありません。

◎生活習慣病予防健診（本人）の受診申込みについて

35歳から74歳の社会保険加入者で、健診を希望される方は、ご自身で健診機関の予約をとり、受診することができます。受診されるときは保険証をご持参いただき、健診費用をお支払い下さい。自己負担上限額は5,282円です。ぜひ、『年に一度の健診を習慣』とし、早期発見・早期治療にお役たてくださるようにお勧めいたします。また、より詳細な付加健診は45歳から70歳まで、5年ごとの節目に受信できます。

◎被扶養者の特定健診受診券は、ご自宅へ送られます。

4月上旬に、ご自宅に受診券が送付されます。直接健診機関で予約をしてください。窓口へ「受診券」・「保険証」をご持参の上受診してください。

◎自動払込をご利用の教会・伝道所へ

自動払込月額表は、6月初旬頃までに順次送付します。毎月の引落日（原則26日）までに、不足のないように確実な入金をお願いいたします。また一緒に、教会負担金やナルド献金をはじめ各種献金の引落しを希望される時は、毎月17日頃までにご連絡ください。申し込みをされない場合は、自教会から送金をしてください。

◎被扶養者の資格喪失は、保険証の返却をすぐに！

資格喪失届は、5日以内にしなければなりません。資格喪失日とマイナンバーを記して、大至急、健康保険者証を教区事務所にお返し下さい。

編 / 集 / 後 / 記

関東教区にある142教会/伝道所で、2024年度の新しい歩みが始められています。各地区の報告から、創造主なる神の護りと導きの中で、地区にある課題や信仰共同体相互の連帯と祈りが、重ねられている状況が記されています。個々の教会・伝道所、信仰者一人ひとりが抱えている課題は異なり、孤独の中で孤軍奮闘していると感じる時も、主に護られ、共に祈る存在があることを覚えていただければ幸いです。（岩河敏宏）

日本基督教団関東教区宣教部委員会

宣教部だより

No.96　2024年4月28日

日本基督教団 関東教区宣教部委員会
委員長　飯塚拓也
301-0843　龍ヶ崎市羽原町1366-5
Tel. 0297（64）3768
http://uccjkanto.holy.jp

「関東教区KKS in 沖縄」特集

「平和が来ますように」 ―― 平和をつくり出し、平和を伝えていく

玉置千鶴子（長岡教会）

第８回９条世界宗教者会議(以下、本会議)に際して沖縄エキュメニカルセンターによる第１回ユースプログラム(～40歳)が開催されました。2023年度の関東教区ＫＫＳは昨年の沖縄ツアーに引き続き、上プログラムに参加する形で開催されました。関東教区からは高校生２名・大学生１名・専門学校生１名の計４名、及び引率として私と池田純平教師(村上教会)が参加しました。他にも各地から大学生や社会人合わせて７名、計11名の参加者と共に３泊４日ユースプログラムとして濃い時間を過ごすことができました。また金井創教師(佐敷教会)をはじめとした現地スタッフの方々や関東教区宣教部委員長の飯塚拓也教師(竜ケ崎教会)をはじめとした宣教部の方々、何より世界宗教者会議に出席された各国・各宗教者の方々との出会いや学びの時を持つことができましたことを感謝します。

１日目こそは緊張もしていた一人ひとりですが、交流の時(全員が全員の名前を覚える・言えるまでは帰れない自己紹介ゲーム…笑)を通して、お互いに名前を呼びあえる２日目以降を迎えることができました。

２日目は本会議と合流し、夕方まで現地研修・バスツアーが実施されました。辺野古(キャンプシュワブ)ゲート前座り込みテントでは基地建設阻止のための抗議活動のこれまでと現状、また各団体挨拶を伺いました。1997年に辺野古に米海兵隊滑走路の建設計画が発表され、2004年には市民の抵抗運動により政府は当初の計画を断念。しかし海兵隊基地キャンプシュワブに隣接する沿岸の埋め立て計画に変更・建設を強行し、2014年から埋め立て工事が始まりました。そして今…2023年度末完成予定だった辺野古の埋め立て・新基地建設が未完成であることは抗議活動の成果であると言える、一方で海上や陸上(埋め立て用土砂採掘・搬入)など、抗議活動が数か所にわたるために幅広い運動展開が必要となっており厳しい現実があることも共有されました。道の駅かでなでは東洋最大の米空軍基地である嘉手納基地を見学し、爆音被害の現実に触れました。その後、泊城公園(渡具知公園)で昼食と共に米軍上陸の地碑にも足を運びました。チビチリガマでは強制集団死が起こった一方で近隣のシムクガマでは死者が発生しなかった…この違い・極限状態で何が運命を分けたのかを考えさせられ、事実を知ることの大切さに触れました。恨(はん)之碑では120万人以上もの朝鮮人が日本政府によって強制動員された現実・加害者性を改めて突きつけられました。特に今回は世界宗教者会議にあわせたユースプログラムとして様々な背景を持つ人達と出会うことができた中で折に触れてそれぞれの背景や思いを分かち合うことができたことはこれまでにない機会となったように思います。夜は基調講演を通して沖縄戦の教訓として導き出された「命こそ宝(ぬちどぅたから)」、この言葉・祈りに触れました。

３日目も本会議と合流し全体会にて、４名の方の発題を受けました。午後はユース独自プログラムとして北谷にあるアメリカンビレッジにて自由時間を過ごしました。沖縄の経済は基地があるから成り立っている?!のではなく、返還された地で確かに雇用が発生している事実と、基地(爆音)のただ中で過ごす現実に触れることができました。夕方は再び本会議と合流し、２名の方から沖縄戦(過去と現在)について沖縄からのメッセージをいただきました。夜は再びユースプログラムとして祈りの時を過ごしました。３日間を振り返り、それぞれが思ったこと・考えさせられたことなどを分かち合いながら共に１つの祈り(末尾記載)を作成しました。違うからこその難しさがあり、終了予定時刻がどんどん伸びていく…というのは３日目の夜にして辛さもありましたが、それ以上に「それはどういうこと？」「自分はこう思う」とこれまで以上に深く言葉を交わす時間を持つことができたことは何よりも大切な時を過ごすことが出来たように思います。

４日目も本会議に合流し、ユースプログラムの報告及びユースの祈りを共に祈りました。若い世代である私たちが事実を知り平和をつくり出すことができるように、そして私たちもまた次の世代へと伝えていくことができますように…そのことを通して平和が来ますようにと改めて祈り願います。

～オプションツアー＆夕食にてさようなら～

参加者の感想

大和田　陽生（那須塩原伝道所）

私は２月19日から５日間、９条世界宗教者会議のユースプログラムに参加する為に沖縄に行きました。ユースプログラムで、特に印象に残っているのはバスで戦争や基地問題に関わる場所を巡ったことです。まず一番最初に驚いたのはバスで走っていると、至る所に米軍基地があることです。日本にある米軍基地の全体の約８割が、なんと沖縄にあるということです。そして、現地の方から、米軍基地建設が、沖縄の太古の昔から現在まで残る貴重な自然を破壊しているということを知りました。このことを聞いて、私は深い憤りを感じました。その後に訪れたチビチリガマでは、米軍に追い込まれた島の住人達が、強制的に自殺を強要されたという、痛ましい話を聞きました。そして、島民達は自分達を守ってくれるはずだった日本軍からも酷い扱いをされ、わざと危険な場所へと追い出されていたということを知り、なんの関係もない人々の命を奪っていく戦争に対して強い怒りを覚えました。

また、宗教者会議では、戦争経験者の方や、沖縄県議員の方から、戦争時の沖縄の様子、そして、現在の沖縄の様子について聞くことができました。そして、衝撃を受けました。自衛隊は、沖縄で有事が起きた際に住人を守らないと明言していたのです。自衛隊は、国民を守る為にあるはずで、その国民を守る義務を放棄すれば、それはただの軍隊です。沖縄の問題は我々の生活にも直結する深刻な問題なのだと、この時、思いました。

私は今回のプログラムで、多くのことを学びました。その中で、最も大切だと思うことは、武力に対して、武力で刃向かわないことだと思うのです。攻撃に対して、やり返しては、再び反撃を喰らい、永久に終わらないイタチごっこのような状態に陥ってしまうのです。そしてその間に罪のない多くの尊い命が奪われてしまうのです。沖縄には「命こそ宝」という言葉があります。命は尊いもの。そんな当たり前のことを理解していれば、人を殺すという恐ろしいことはできないはずです。聖書にも、隣人を愛せという言葉があります。憎しみは何も産まず、尊き命を奪うだけです。たとえ敵でも愛することができれば、争いの連鎖は止めることができるのではないでしょうか。しかし、いま、この国がしていることは多くの尊い命を奪うことに他ならないのです。ですが、殆どの人はこのことを知らないでいます。まず、私達の様な若者が、この問題が如何に重要であるのか、そして、「命こそ宝」「隣人を愛せ」。この言葉を一人でも多くの人に伝えていくことが何よりも大切なのだと私は思います。

今回のユースでは、神様との繋がりを感じる機会が沢山ありました。私は沖縄で沢山の貴重な経験を積むことができ、多くのことを学び、新たな人々と出会い、交流関係を持つことができました。それはひとえに神様の導きがあったからだと私は思います。私は沖縄に行くまで、この先の人生について考えていました。しかし、今回の沖縄のユースプログラムを終えて、私はこの先の人生についての答えを得ることができたと思います。神様は時に試練を与えますが、それと同時に必ず良い方向に導くチャンスも与えてくれるのだということを今回のユースで感じることができました。

直井　一樹（那須塩原伝道所）

最初はこのプログラムに参加するか凄く迷いましたが、勉強と経験が得られると思い参加しました。

参加してみての感想は、とても良い経験と残酷な現実、目を背けては行けない現実、そして同じユースである者達とのかけがえのない時間を過ごすことができて、自分の財産になりました。

僕は最初は沖縄に沢山米軍基地ができていると聞いて、戦力強化に繋がっていいんじゃないの？と思っていました。しかしそれは大きな間違いで、また沖縄戦のような悲劇を繰り返そうとしているんじゃないかと痛感しました。

会議の内容はとても暗い話ばかりでしたが、ユース達との交わりの時間はとても素敵な時間でした。この沖縄で初めて出会った私達ユースがプログラム最終日の夜にみんなで１つの祈りを創る時間は、少し大変でしたがとてもかけがえのない時間でした。

沖縄の今の現状があるからこそ、出会った私達。この出会いには意味があるのだと感じました。この沖縄で過ごした５日間はとても大切な時間でしたが、私は飛行機のフライト時間を勘違いして乗り遅れてしまい、５日間＋１日過ごす事になってしまったが、おそらくこの１日もなにか意味のあるものであり、結果この沖縄で過ごした６日間は自分の財産になりました。

岡本厚さんのお話を聞いて　　穂刈　歩実（竜ケ崎教会）

第１回ユースプログラムが行われて、９条世界宗教者会議にも参加しました。そして、岡本厚さんの講演『沖縄から学ぶ ― 戦争時代の中の「命こそ宝」―』を聞きました。「命こそ宝」という言葉は忘れないでいたいと思いました。命は大切なことはあたり前のこと

です。でも、沖縄から学ぶという意味で決定的で重要な言葉とのことでした。沖縄戦争だけが日本本土での戦争で唯一の地上戦で、私が知っていたのは、広島、長崎に原爆が落とされたとか、東京で大空襲があったとかでした。沖縄と本土の戦争体験は全く違うことも知ることができました。住民が戦争に動員されたり、守ってくれるはずの日本軍が住民の虐殺や自決の強要をしたりするなどにも驚きました。

みんなが戦いを拒否して、世界中で戦争がなくなって平和で安心して暮らせるようになったらいいと思います。「命こそ宝」とは、「平和こそ正義なのだ」、ということを忘れないでいたいです。

柳澤　空翔（竜ケ崎教会）

私は今回、沖縄でユースプログラムに参加しました。ユースプログラムは３泊４日で行われ、自分を含め若い人たちと一緒に９条世界宗教者会議に参加して、沖縄について学び考えるという内容でした。実際に沖縄にあるガマやアメリカ軍の基地を見たり、講演を聞いて、平和について考えたり、ユースのみんなで祈りを作成したりなどとても貴重な体験をしました。

その中で私は何度も同じこと考えました。それは本当に自分は何も知らないんだなということでした。私は沖縄について学ぶということは、今回が初めてではなく、今までも何度か学ぶ機会はありました。ですが、今回の内容は今までのものとは大きく違いとても濃い内容で沖縄の過去と今をちゃんと知ることが出来たと感じました。

ですが、このまま学べて良かったで、終わらせてはいけないと思います。なぜならまだまだ、沖縄について知らない人がたくさんいるからです。今回聞いた話は沖縄の人だけが考えるものではなく、日本全体の問題として考えるべきです。なので今回のプログラムで聞いた話を自分の中で終わらすのではなく、もっと周りに発信していこうと思います。

“恐れ”を克服する出会い　池田 純平（村上教会）

沖縄で開催された第８回９条世界宗教者会議のユースプログラムに参加してきました。２月20日（火）から始まる会議を前に、19日（月）に沖縄に入り、関東、関西と現地から集まったユースメンバーと合流しました。金井創牧師（佐敷教会）によるコーディネートでメンバー11名が互いの名前を覚えてからのスタートでした。

翌日、会議に参加する多くの人々が、カトリック安里教会に集まり、数台のバスに分れて現地研修をしました。各所で金井牧師が説明をしてくれる言葉を英語や韓国語に翻訳しながらの大移動でした。辺野古のキャンプシュワブのゲート前、嘉手納基地が見える道の駅かでな、沖縄戦に巻き込まれた朝鮮人を追悼する恨の碑を回りました。

私は中でも今回初めて訪れたチビチリガマが深く印象に残りました。ここに避難していた人々は、鬼畜だと教えられたアメリカ兵による残虐な仕打ちを恐れて、肉親同士による集団自決をしました。しかし、同じく読谷村にあるシムクガマでは、ハワイからの帰国者２人がアメリカ人は捕虜を殺さないことを知っていたため、全員無事だったそうです。アメリカ兵を知らなかった人々は、戦時中、日本兵が中国や朝鮮の人にどれだけ酷いことをしてきたか見ているが故に自分たちも同じことをされるという〝恐れ〟が、この悲惨な出来事を引き起こしたと教えてもらいました。

夕方から行われた岡本厚さん（元岩波書店社長）の基調講演でも〝恐れ〟について触れる場面がありました。岡本さんは、学生時代に出会った阿波根昌鴻さんや編集者として関わった大江健三郎さんとの出会いもあり、沖縄に関わり続けてきて、現在は「『台湾有事』を起こさせない・沖縄対話プロジェクト」という活動を行っています。その活動を通して知り合った人から「日本に蔓延している中国脅威論が実際に起きるとは思えない」との日本と大陸との意識の差に衝撃を受けたそうです。私の周りにもこの中国脅威を根拠とし軍拡を認めるような人が多くいるため、私も衝撃を受けました。岡本さんの「脅威は、鏡に映った自分の姿に過ぎない」という言葉が心に残りました。チビチリガマでの凄惨な事件を引き起こした〝恐れ〟が、今、日本で、世界に蔓延り、非戦による平和を蝕んでいます。

プログラムの２日目は、カトリック安里教会を会場に全体会が行われました。この日は、各国から宗派・宗教を超えた９条や平和への想いが述べられました。私は中でも、2011年から済州島の海軍基地に反対する運動をしてきたソンガンホさんの話に注目しました。ソンさんは、９条は「平和の光（beacon）」「戦争と軍国主義のない世界を望む人類の願いの証」とこの平和憲法に希望を見出しています。そして、脅威が蔓延する現在でこれを守るためには、守ろうと主張するだけでは足りず、２つの課題を伝えています。それは、「日本国民が持っている戦争に対する恐怖をなくそうとする努力」、「９条に該当する平和憲法の制定を近隣諸国に促すこと」です。前者は受け取り方によって誤解されそうな文言ですが、ソンさんは「この国は戦争を恐れて戦争に備えるという矛盾に陥っている」と言います。戦争への〝恐れ〟を戦争で拭い去るのではなく、平和憲法を広めることで克服していくための行動です。ソンさんは済州島や沖縄諸島、台湾で平和キャンプを行い、平和大学を設立してヨットでの航海を平和運動家たちと開催しています。〝若者は会議に来ない〟と100日間船で講義したそうです。出会い、繋がりを持つことが平和を作ることなのだと教えてくれました。

私は、職場の行事参加があり、このセッションが終

わると帰路に着きました。最後までいることができなかったのは残念でしたが、沖縄に来て、平和を求めている人、９条に希望を見出している人が決して一人ではないという繋がりを感じることができたのは何より嬉しいことでした。日々に追われたり、世間の右傾化の波に押し寄せられて自信を失い、非戦をまともに語ることをしていませんでした。

国は〝恐れ″を植え付け、戦争への道を進めようとしています。出会いや連帯は、平和憲法９条を脅かす〝恐れ″を克服させ、国による軍拡といわゆる憲法改正への抵抗する最大の手段だと改めて思いました。そして、見えざるものへの単純な畏怖（恐れ）ではなく具体的な信仰を持つ宗教者だからこそ、〝恐れ″を克服するための方策を持つことができているのではないかと特に今回は感じました。

今回、共にユースプログラムに参加してくださった皆さん、コーディネートし、案内をしてくださった金井牧師、関東教区宣教部の飯塚牧師に感謝します。久しぶりに会った人々とも、初めて会う方々とも名前を呼び合い、食事をする時はとても平和な時間でした。ソンさんは「平和のために働きましょう」と述べられていました。今、地元に帰り、ここで得たものを共有することで少しでも平和へと繋げていきたいと思います。

ユースの祈り

私たちは今までの歴史と今負わされている痛みを知ることができました。沖縄でたくさんの血が流され多くの犠牲者がでました。人間が戦争で犯した過去の過ちがあったことを理解し、その非を認めることができますように。

戦いで獲得できる平和などないということを現在の沖縄の状況から学びました。たくさんの人がそのことを知りますように。学ぶことを通してデマに踊らされることなく、“恐れ”の正体を見抜く力を培うことができますように。

たとえ理解も共感もできない人たち、武力行使を正義と考える人たちであってもその人たちと共に生きる勇気を持てますように。そして暴力に対して非暴力で対抗し、対話によって暴力によらない世界をつくることができますように。不正義に気づき具体的な声をあげ、暴力なしで解決できるようになりますように。その為に必要な知恵や勇気を持ち、そして連帯し励ましあい各地での活動が孤立することなく続けていくことができますように。暴力によらない平和を追い求める希望をもっていいんだということを私たちが信じ、これからの歴史を一人ひとりが担っていくことができますように。この信念こそが希望の火だと思います。その火の一つひとつは小さいかもしれませんが、それらが合わさって大きな火となれますように。そして次世代に繋ぐため、私たち自身が見聞きしたことを少しずつでも発信し、戦争をさせないような平和を私たち一人ひとりからつくり出せますように。

世界中の人たちが笑顔で暮らせますように。

すべては、あらゆるいのちが安心して生きることのできる自由が奪われない為に。